



PROFILE

Muhamad Ali
President, myJICA

2012年よりmyJICA会長を務める。1989年に沖縄で行われたJICAシステムエンジニア研修参加、現職は、MAMPUのICTコンプライアンス部部长。

沖縄研修

おきなわ

タクシー運転手に道を指示するとき、「ライト」「レフト」と日本語で言ったら、運転手に「英語でいいですよ。あなたの日本語より私は英語の方がいいから」と言われました。そのとき私は、多くの沖縄の人が英語が話せるということを知りました。1990年に、JICAの招へいで沖縄に6か月のシステムエンジニアの研修に参加したときのことです。

●那覇市街日本語体験

研修中、クラスでの活動の他に、那覇市街を探検する課外活動にも参加しました。この「日本語サバイバル」プログラムは、午後から夜にかけて行われました。私たち16人の研修参加者は、最初にOkinawa International Center (OIC)で先生から説明を受けてから、ポケットの中に千円札を1枚もらって出発しました。出発前に、身の回り品はすべて先生に預けさせられました。タクシーの運賃は5,000円くらいするので、これで私たちはタクシーを使って帰ってくるができなくなりました。1989年ですから、携帯電話もまだありません。代わりに、研修参加者証と一緒に、課題を書いた紙が渡されました。

私たちは皆でOICからバスに乗り、那覇市街の国際通りで降りました。そこからは8組に分かれ、私はインドネシアのAtas Parlindungan Lubisさんと一緒に組になりました。8つの組は、それぞれ別々の課題がありましたが、最終的には同じところに集合することになっていました。

私とLubisさんは、国際通りのそばの牧志市場を歩きました。目的は、通りすがりの日本人やお店の人に日本語で質問して、課題を達成することです。

歩き始めて間もなく、誰かが私たちに向かって

「メラユ、メラユ、メラユ、」と呼ぶのが聞こえました。見ると、ひとりのおじさんが私たちと真剣に話したがついているようでした。この人の日本語がよくわからなかったのですが、何が言いたいのか周りの人に聞かなくてはなりません。私たちがマレーシアから来たのか確認したいようだったので、そうだと答えると、どこの町から来てどこに住んでいるかと聞かれました。そのおじさんは、マラヤがまだ独立していない頃、クランタンで仕事をしていたことがあるのだそうです。おじさんは、当時日本がマラヤに対して行った誤った行いについて、私たちに謝りました。私たちは、このおじさんの謝罪をただ受け止めるだけでした。このおじさんが登場したのは私たちの研修計画に入っていたわけではなく、全くの偶然だと思います。

このおじさんは「Melayu (ムラユ)」というつもりで「メラユ、メラユ、」と言ってしまったのですが、私の顔はいかにもマレー人らしいんだなと思ったことが、今でも心に残っています。

それから私たちは、市場に来ている人たちに日本語で質問をして、課題を解決しながら冒険を続けました。

きものを着た若い女性のグループにも出会いました。私たちはすぐに彼女らが誰なのか、どうしてきものを着ているのか、そのきものはいくらするのか聞きました。それは、彼女らが21歳になったお祝いだったのです。彼女らにとっての独立記念日のようなものです。私たちが一番びっくりしたのは、きもの値段です。マレーシアでプロトン車を1台買うよりも高かったのです。

課題を終えるため、私たちはさらに那覇市街を歩きました。最後に、目的地であるレストランに向かうバス停を探しました。バス停は何とか見つかりま

したが、どのバスに乗ればいいのかわかりません。そこで、一緒にバスを待っていたおじさんに尋ねました。おじさんは、道の反対側にある別のバス停に連れて行ってくれた上、バスを止めて一緒に乗ってくれました。目的地に着いたら、おじさんはレストランがどこか教えてくれました。その後、おじさんはまたバスに乗って那覇の街に帰っていきました。このような日本人の親切を、私は決して忘れることができません。



●俳句との出会い

10年後の1999年、私は再びOICに戻り、データ処理管理者研修に参加しました。10年を経ても、沖縄やOICには大きな変化はありませんでした。私は、また夜の日本語講座に参加しました。

日本語の勉強の他に、日本文化を習う機会もありました。例えば、生け花や俳句を勉強しました。再びマレーシアに帰った後、私はesastera.comのなかにマレー語俳句クラブを作りました。今でも、多くの会員や学生が俳句クラブに参加しています。myJICAも、学校の児童向けに、頻繁に俳句クラスを開催しています。

マレーシアには日本のような季節がないので、季語ありません。そのため、私たちは「学校休暇」「洪水の時期」「ハリラヤ」などの季語を探しました。

esastera.comグループでは、毎年「今年の俳句」



賞や毎月の「ベスト俳句賞」を選んでいきます。俳人は、俳句を詠んだら、いつでもオンラインで投稿することができます。議論やコメントもオンラインで行います。俳句を詠む会を実施することもあります。

興味がある方々はどうか以下のリンクをのぞいてみてください。

<http://www.oocities.org/haikumelayu>
<http://www.esastera.com/haiku>



水面の月
こわれても、こわれても
まだそこにある

●ひとこと

外国で日本語を教えるというのは、日本でずっと大変なことだと思います。ほぼ100%の人が日本語を話す日本と違い、外国では周りに日本語を話す人はそういませんから、実践するのは大変です。私は沖縄での6か月の研修で60時間しか日本語を勉強していませんが、6か月ずっと勉強していたように感じます。日本の環境が、早く日本語を使えるようにさせるのです。にもかかわらず、マレーシアで集中的に日本語を勉強した友人達は、私よりもずっと流暢に日本語を話せるようになりました。なぜでしょうか。一番の要因は、他でもない、勤勉で忍耐強く学生を指導する皆さん方日本語教師のおかげです。皆さん方はとてもいい仕事をしています。☑

myJICA

<http://www.myjica.net/>

1988年に設立された元JICAマレーシア研修生の同窓会。マレーシアにNGOとして登録されている。会員は約3,000人。会の目的は会員同志の親交やマレーシア・日本の交流で、日本語クラス、ホームステイ、スポーツ、ファミリーデー、出版などの活動を行っている。アジア地域でも活躍している。